

なぜいま「社共にかわる革命的労働者党」なのか……3面
82〜83年同盟運動方針案批判……2面
レーガン「ゼロの選択」の本質……3面
燃える欧州—欧州の反核・反戦闘争……4面
刑法と古くはパネル・意見交換会粉碎へ……4面

旗 せつき 赫

共産主義者同盟中央機関紙

1981年 11月25日

本号 4頁 1部 150円
(毎月10日、25日発行)

発行所 赤路社 東京都大田区大森北1-13-11 編集・発行人 北沢晋
電話 03(766)4729 振替口座 東京7-86947
関西支社(関西赤路社) 大阪府福島区大開1-19-13
副島ビル 電話 06(462)7030
《定期購読料》1部・22回
手渡しの場合 3000円 郵送の場合 開封 3500円(送料共) 密封 4000円(〆)

統一準備会粉碎へ起て

12・13・14全国結集を！

全国の労働者諸君！ 労働貴族達の反革命宣言——「統一準備会」発足に反対し、全国から決起せよ！ いまわれわれは「五項目補強堅持」をスローガンから降ろさねばならない。なぜなら、この内容は「統一準備会」発足へ向けた総評・民同指導部の策謀を粉砕する戦術であつた。だが、明らかに右派民同が総評を分裂させた以上、労働者が当面する闘いの方向としてみても、この「基本構想」粉砕、「統一準備会」不参加の態度を確固としてかためる方向とすべきである。闘う労働者諸君！ 十二・十三・十四日比谷へ全国から結集せよ！ 全力で「統一準備会」を粉砕しよう！

統一推進会は、十一月五日総評臨時大会の結果を受けながらも、「統一準備会」発足を予定通り行うことを申しあげた。

この背後には、明らかに横枝・富塚の了解がある。彼らは四日の臨時大会の結果を、民同政治よろしく「執行部提案が「大筋」において「了解された」と主張し、「経過の尊重」と「五項目補強堅持」をもって、十二月初旬の総評拡大評議会で「時差参加」の了承をとりつけるように工作しはじめた。十七日の民同十一単産代表者会議を十月二十六日に民間単産幹事会賛成部分を中心として開き、鉄鋼労連、全日通をはじめ全労連、全鋳、電通労連の五単産が参加を決定した。残る私鉄総連をはじめとする六単産もこれにつづくものと思われ。

総評の二分が明確となった。全港連をはじめとする闘う中小単産、官公労働者の決起が政治局面を決定する。いまや、事態は、敵の右翼統一攻撃——「基本構想」が労働貴族の手によって具体化する段階に至つたことを示している。

この流れをおしだし強めるため、いま闘う左派の階級的労働運動の創出へ向けた行動と方向が、極めて緊急な課題となつていく。

第一は、依然として敵の「基本構想」に対する批判を徹底して大衆化するところである。

この間、労働貴族達の密室で行われてきた右翼統一の策謀は、民間六単産の申し入れ、三顧問アビール、そして闘う左派の十二・一〇・一十一・四行動のなかで、ようやく下部労働者大衆の前に、そのもつ反革命的、反労働者の性格が明らかになつてきた。この機をつかんで、総評内外の労働者の闘いを強めねばならない。

労働貴族達の「基本構想」は、八十年代日米安保体制の再編・強化をカネに、日帝の第三次世界

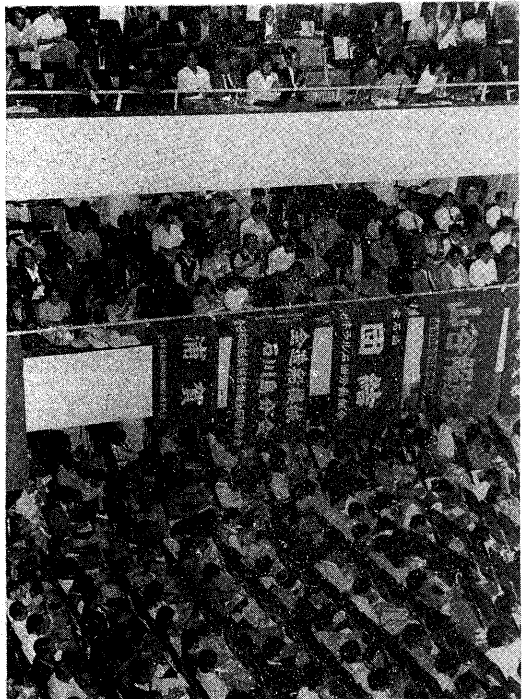
労働戦線の右翼再編——12・14「統一準備会」粉碎 十二・三労働者決起集会

12・3 集会要項

日時 十二月三日(木)午後六時
場所 機械工具会館(国電町駅下車)
主催 集会実行委員会

＝集会内容＝

- 問題提起 樋口篤三
- 基調報告
- 職場、地域からの報告
- 連帯あいさつ



階級的労働運動の創出を

大戦——朝鮮侵略戦争の手先となる宣言に他ならない。軍備増強、核・原発、行政・改革、刑法改悪、保安処分新設、賃金抑制、大衆収奪等、さらには、韓国・アジア・中東人民の抑圧、収奪の強化、これが「基本構想」にもとづき労働組合運動の実践となるであろう。とりもなおさず、これこそ労働組合運動の死を意味する労働の現代の産業報国会化に他ならない。

同盟・JC主導の「統一準備会」

第二の課題は、この力を結集し資本・国家権力・労働貴族が一体となつて支配・統制している工場、職場、地域で労働者大衆深部から階級的勢力闘争を復権させ、革命的・階級的労働運動の陣地を拡大させていくところである。

総評・中立労連等で組織した八二国民春闘共闘会議が十日発足した。しかし、これはもはや形式でしかない。その内実は「統一準備会」が決定するといつて過言ではない。「管理春闘」は、文字どおり労働者大衆の闘争を圧殺し、資本・国家権力・労働貴族が統制するものとしてあらわれるのである。

それゆえ、民同——春闘方式がその根幹から解体されつつある今、闘う左派の地域共闘——官民一体組織・未組織労働者の交流と団結、産別共闘の拡大は一層重要となつていく。依然として闘いの主戦場はここである。

いま労働貴族たちの官僚的支配と統制のもと、産業報国会化の上から強要せんとしているとき、これを迎撃せんとするときは、労働者下層の決然とした力であり、横の強固な連帯である。企業・産別・官民を越えて、そして組織・未組織を越えて、先進的労働者が心をひとつ、闘いの方向をひとつにしていくとき、敵を心底から

行政改革反対、④日米韓軍事同盟粉砕、朝鮮・アジア人民連帯の革命的な大衆行動をつくりだしていくことである。

昨年五月以降の光州蜂起連帯、金大中氏救出運動への全港連をはじめとする労組の進出、反戦反安保闘争への広範な青年労働者の登場、反原発闘争への地区労働者・民衆の参加など、これら下部労働者大衆の階級的力は消えつつはいない。

いまこそ崩壊しつつある社共——総評の「議会主義と改良主義」の構造をうちやぶり、労働組合を政治闘争の前線へおしだしていくことが問われている。階級的労働運動の形成はこれを抜きに進めることはできない。それゆえ、わが同盟は全国の労働者、共産主義者に呼びかける。「闘う労働組合」形成を第一線とした階級的労働運動の前線のため、労働組合を主軸とする全国的な政治共闘機関をともに準備しよう。

冬期カンパの集中を！

全国の同志・友人のみなさん！ 私たちは八一年九月、社会党、共産党にかわる革命的労働者党創建の中心核となるべく、あらたな共産主義者同盟を戦取しました。私たちは、この統合の成果をがっちり握りしめ、変わらぬ支援をよせてくださる労働者、学生、のみなさんとともに前進していく決意です。

戦争への道か、社会主義への道か、この二つの道をめぐる攻防戦が、全社会をおおひ、ひとつの巨大な嵐をひきおこそうとしている——これが、私たちすべてをつむ、八十年代初頭の情勢であり、すでにその緒戦ははじまっています。

今こそ、どのような嵐がこようとも、大地にふかしく根を張り、広々と枝をひろげる確固とした党を、労働者階級の真の戦闘司令部として、勝利のための最大の武器として闘いとりとえよう。

日々奮闘するすべてのみなさん！ 冬期カンパの圧倒的な集中を！

共産主義者同盟

☆カンパの送り先 振替口座 東京七—八六九四七 赤路社 北沢晋

左派の大胆な突出を！

写真は上から9.30首都圏労組集会(渋谷山手教会)、10.20国際反戦デー中央集会(明治公園)、11.4総評臨時大会(九段会館)

集会予定

12/10	労働統一反対神奈川集会 午後六時 神奈川県政総合センター
12/10	労働戦線右翼再編会 午後六時 京都労働会館
12/7	三多摩「労働統一」反対集会 午後六時 時半、立川商工会館
12/5	刑法名古屋パネル 反対闘争 午前九時 西柳公園

あけすけな 侵略と反動の翼賛

同盟82~83年運動方針案を大衆的に弾劾しよう！

総評臨時大会に先立つ十月三日、多くの総評組合員の右翼的労働統一反対の意向が露骨に現れた。このように発表された同盟の「八二・八三年度運動方針」第一案は、それを知った総評傘下労働者の中から「こんな同盟の統一は絶対に認められない」という怒りの声をあがらせている。

同盟がこの時期から運動方針案を明らかにした意図は、彼らが今回の労働統一をあくまでも同盟主導で推進し、同盟路線に反対する良心的単産の選別排除方針をまったくゆずる気のない事を今一度明らかにしたものである。

それはまた「民間単産統一」対応なるマニュアルで右翼統一に向け、局面を乗りきろうと策する横柄・寡黙の思惑を今一度破産させることにもなったのである。

右翼統一の行く末 示す同盟「方針案」

同盟の「八二・八三年度運動方針」第一案は、公明党との定期協議の場から明らかにされたものであり、来年一月末の定期大会に提出される方針案の第一案である。それは同盟自身にとっても、彼らの「八二・八三年度運動方針」から今一步、帝国主義労働運動としての自らの姿を鮮明にさせる転換点ともなりうるものである。

第一案からいくつものフレーズを拾いあげてみれば、その明白になる。

「緊張する国際政治」と題する冒頭部分において「緊張する国際政治のなかにおいて、経済面を中心にして、西側の一員として、その防衛のための共同責任と分担を一層強く求められているが、自由陣営の連帯と協調を強化するうえから、またわが国の安全保障の立場からも可能なかぎり役割を担うべき役割を積極的に評価し、これを堅持する」「国民合意のもとに防衛力を整備しなければならない」と述べられていること、今日同盟の目的とするものは充分に明らかである。

彼らのいう「自由陣営」が帝国主義諸国家のことであり、「わが国の安全保障」とは日本帝国主義の将来にわたる安泰——それは革命の圧殺と引きかえに示えらるるものだ——を意味することは自明であるが、そのために全力をつくすというものである。

先進的労働者、労組の 分散克服し闘う団結の形成へ

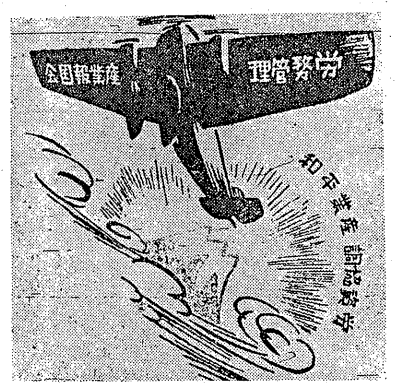
12・10 多くの仲間と共に労戦の右翼再編に 反対する京都集会を成功させよう！

十二月十四日、「労働戦線統一推進」の発足をめぐって、総評・民同の分裂・分断が進行し、全国的規模での流動化が激しくなっている。

京都では、地評の反主流派が代議員の多数派が日共——統一労組懇話会であるという、全国状況とのちがいがあつた。十一月五日の地評大会は、執行部の「基本構想反対」の提案に対し、主流派——社会党系内での賛成・反対の分裂が生じた。しかし、「地評の団結」という形でかろうじて主流派の退場で流会となった。執行部提案に反対して、新産別京滋地連（京都では地評に加盟）・全日通・全電通が「基本構想反対」の削除を求め

今日まで、京都では、戦闘派・先進的労働組合が分散する状況が続いていた。

去る十一月八日、全金・全通・新産別など五名の呼びかけ人による「労働戦線の右翼統一に、我々はいかに対応するか懇談会」が開催された。この呼びかけは、「基本構想」とその推進派は「労働者の解放」「階級的労働運動」を主張する労働組合・争議団・地域共闘・活動家を、労働者の敵と規定しています。今こそ、この推進派と対決し、工場・職場・地域共闘の闘いを一つの大きな流れにする事が重要な課題である」と提起して



1940年「産業報国」紙のさし絵

さらには「今日、わが国の商品輸出をめぐって、友好関係にも重大な影響をおよぼしかねない状況にある」「話し合いによる協力の推進を、労働外交」というならば、ここにこれからの労働組合の新しい役割がある」と日帝の海外進出・侵略を促進し、第三世界からの原料資源の略奪、低賃金労働力の獲得を、労働外交によって手助けしようとするものである。

また、国内的には「民社党の指導のもとに健全な野党づくり」をめざし、社会党について「社会主義協会に反対し社会党を現実的な健全野党に改革しようとする芽が生れつつある」とのべ、この間の社会党内での右派の台頭を激励し、新たな政策再編の「起爆剤」（基本構想）として活動しようとしている。

そもそも第一案を公明党との定期協議の場で公表したことは、この間安保・防衛政策の「見直し」にふみこんだ公明党との関係を重

十一月二十一日にまとめられた最終案では「可能なかぎりの役割を（一定の役割）と書き変えてはいるものの、それが何ら内容的変更になっていないことは明らかである。

また防衛力の整備を、国民合意のもとに進めようというくだりに注目しなければならぬ。これこそが、帝国主義労働運動としての今日の役割の最も重要なものであり、要するに日帝の戦争準備への国民合意、帝国主義戦争への奉賛一致をつくりだす役割を自ら担うことを決意表明していることに他ならない。

反行革決起集会 東京

11・16 総合安保の一環——行革攻撃と 闘う官民の共同戦線の構築へ

十一月十六日、東京渋谷の山手教会で反行革決起集会が開かれた。「産別、官民の絆をこえ、労働者・市民が連帯し、反行革戦線の構築を」と銘づかれたこの集会は、「行革国会」のさなか、この間孤立奮闘をいられてきた政労協自治労の労働者の力によって実現されたものである。

集会基調は、「行革」のもつ政治的危機管理体制づくりのテコとしての性格を、国家財政の危機を抑圧の武器に転化する道すじをたどるものと暴露した。この攻撃はまた、国家イデオロギー、軍備増強



戦争の侵略を阻止する労働者の闘争 東条英機をたたき倒す労働者の闘争

また「労働戦線の統一推進」については「基本構想は大筋においてわれわれの方針を踏まえたものである」と満足の意を示しつつそれでもまだ不鮮明な部分があるとして同盟路線をさらに固くおしする構えをみせている。「同盟の組織拡大と活動の強化は新しく形成される結果と見られて矛盾するものではない。それは新しい結果集の力を大きくし、その活動力を力強いものにするだけでなく、その発展と強化を促進するものである」

同盟内部から 闘いの炎を

「われわれは官公労働運動の分野に民主化を精神的に進めなければならぬ。民間における新しい結集への動きは、すでに行き詰まりつつある官公労働運動に衝撃を与えずにはおかない」と右翼的労働統一にかけた自らの自信のほどをひききしているのである。

これらのことは、統一推進会議事録で明らかにした「第二臨調で行革をどうやらねば全的統一の展望が出てくる」という彼らの思惑を今一度、公言しているに等しいのである。

こうした同盟の運動方針案を前にした総評・富塚は、突如として「防衛問題を巡る同盟との公開論争」をやるとい出した。それは他でもなく、多くの総評組合員がこの同盟運動方針に対して怒りの声をあげはじめたことによる。この間、労働統一をゴリおしてきた自己の立場が危うくなったと判断した富塚一流の「直感」である。しかし、こうした横柄や富塚の場当たり主義的な政治技術では、彼ら自身の責任をのがれることはとうていできないし、闘う労働者は決してそれを許さないだろう。

ともあれ、こうした事態の進展は、ますます否応なく労働者の日常活動と社会生活のなかにまで、戦争と安保の問題をおし広げずにはおかず、この問題に対する態度表明を迫るものとなるであろう。

それは、労働組合をして現代版産業報国会への道を歩むのか、さもなくば反行革安保闘争の中心部隊として登場するのか、しかもそれを、どのような観点から闘うのかを鋭く問うものである。

すでに来春には「リムパック82」の、日大文理学部への生長の家系右翼——反憲連連の武装登壇がい、一年間にわたって闘われてきた日大解放・右翼一掃の闘いの中間集約として、日大文理学部連絡会議（ヘル）の呼びかけにより行なわれたものである。

この日大文理をめぐる学生共同闘争は四・一九——二〇全国闘争を頂点とし、一月の入構闘争や四月新歓闘争、さらに現在では反憲——当局——権力一体となった自主学祭ついに抗する学祭闘争として、前進・発展してきている。

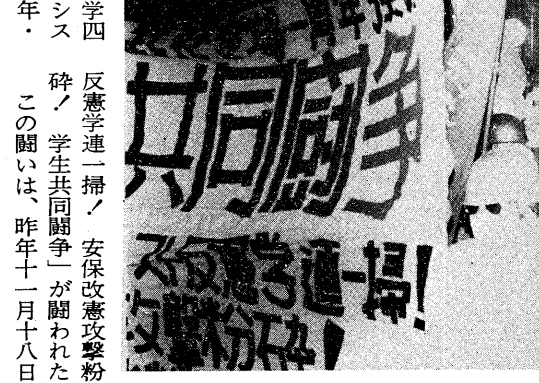
こうした闘いに追いつめられた反憲連連（浜崎・川井・伊藤（三名とも日大生）は、再び「暴力事件」——アッチ上げ告訴を行い、これを受けた政治警察は十一月十三日、二二日一名の闘う文理生を不当逮捕した。この闘いは、昨年十一月十八日



決行革11.16

11・18学生共同闘争 反憲・原理を一掃せよ

闘う日大生への11・20.21不当逮捕弾劾！



さる十一月十八日、三二大学四四団体四百名を集めて「ファシスト学生運動武装登壇糾弾一周年」の闘いは、昨年十一月十八日

欧州「戦場化」に強まる危機感
高まる反核・反戦の波

めにあらゆる運動を体制内化させようとする刑法改悪を、三大闘争とあわせて闘いぬく。これは反差別、反権力、反侵略を旗印に最底層にされた。そして百人委員会より、反撃国会上程阻止にむけて、①各地闘争強化、②署名運動、③二

以下に「落し」のありさまを、言ひ上つておきたい。
五段目の左から五行目「丸紅側は」のあとに「全面的に五億円の贈賄を認めている（メッセンジャー）説である（が）」にもかかわらず、ふしぎなことだが田中側は「が入

11月8日 刑法改正悪保女処分阻止
全国総決起集会

決議文の提起

ようとする開法改革を、三大闘争とあわせて闘いぬく。これは反差別、反権力、反侵略を旗印に最底闘争強化、②署名運動、③一二

が」にもかかわらず、ふしぎなことだが田中側は「入り」それを否定……とつづきます。